

〔藝文類聚〕天梁簡文帝望月詩曰流輝入畫堂初照上梅梁形同七子鏡影類九秋霜桂花那不落團扇與誰裝空聞北牖彈未舉西園腸

〔文德實錄七〕齊衡二年二月癸亥備中國言吉備津彥名明恐一衍神庫內鈴鏡一夜三鳴

〔三代實錄十四〕貞觀九年四月二日辛未遣神祇大祐正六位上大中臣朝臣常道向近江國伊福伎神社奉弓箭鈴鏡

〔歷世女裝考〕柄鏡

柄のつきたる鏡を唐土にては柄鏡といひていと古くよりありし物なり略○中昔七八百の比及にいたりては佛法盛なりしゆゑ佛にも鏡を供養する事となりてそれには大かた柄鏡を新に鑄て奉納する事とみえたり略○中案に神佛へたてまつるに柄を作るは建おくに便利ためなりぬめり略○中此圖飾記○御記にても柄鏡は衣冠を正す物なるよしぞえらるゝ且又和漢とも古き柄鏡にはおほかた柄に孔あるも座右に掛おくためなるべし略○中今のごとく鏡はかならず柄ある物となりし時代を考るにおのれが藏する寛永の間の畫に浴後の美少年湯女とみゆるに髪をゆはせながら柄鏡を採りて顔を視るさまの圖あり又正徳二年の和漢三才圖會の鏡の所の圖に圓鏡と柄あるかゞみと二ツならべて畫けり又元文三年正徳十七年正のち西川祐信が筆の繪本貞操草に島田にゆひたる娘圓鏡と柄鏡にてあはせかがみする圖ありこれを參考するに今のごとく鏡といへば柄ある物になりしは僅に百年以來の事なるべし略○下

〔淵鑑類函三百八十〕鏡二 李氏錄曰舞鏡有柄漢武帝時舞人所執鏡也

〔君臺觀左右帳記〕銅雀臺ト云カバミ有胡銅ノカバミノヲモテニ色々五色ナルルリノヤウナル物ニエツキテクモリタリ其内ニイサカミガキテ物ノカゲノウツルカバミアリ重寶也マレ